

## ケアハウスに関する基礎的研究（第3報）

## 居室の利用形態に関する事例報告

聖霊女子短大 ○佐藤了子 佐々木久長 佐藤衛子

〔目的〕ケアハウスの居室は、個室ではあってもその広さや形は画一化されている。その空間をどのように利用しているのかという利用実態を明らかにすること、入居前と入居後の家具や持ち物（本や衣類等）の量の変化を明らかにすること、居室に対する住生活の視点からの入居者の評価を明らかにすることが第3報の目的である。

〔方法〕調査対象施設は第1・2報に同じ。夫婦1組、男1名、女3名の計6名を対象に、面接聞き取り方式で調査した。

〔結果〕(1)入居前の住宅が賃貸であった人や持ち家を処分してきた人は、衣類の持ち込みが多く、和服など日常的に使用しない衣類を処分しているケースが多かった。それに対して、入居前の住宅をそのまま利用しているケースでは、季節毎に居室に置く衣類を交換しており、持ち込み量も多くない。(2)居室内及び共同の設備に対しては、概ね満足している。しかし、居室の床面積及び収納場所については、殆どが不足していると回答している。見学に来て入居を取りやめた人の殆どが「狭さ」を理由にしていたということからも、ケアハウスでは個室が提供されるとはいえ、その人の全生活が展開される場であることを考えると、共同の倉庫を設置するなどの対策が必要なのかもしれない。